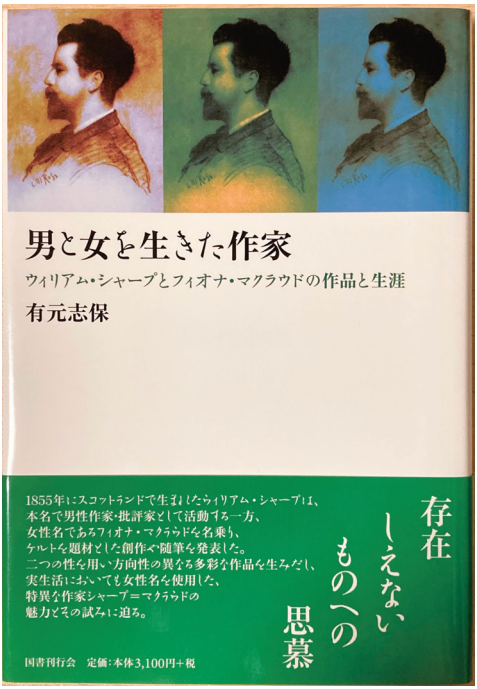
男性作家による女性の筆名使用事例の研究

一般教育等　有元 志保

● 連 絡 先　　TEL：054-202-2643

キーワード　ウィリアム・シャープ／フィオナ・マクラウド，筆名，ジェンダー，ケルト，イギリス文学，スコットランド文学

短期大学部

作家が異性の筆名を使用する意図を探ることは、作家個人のジェンダー意識を解明する手がかりとなるだけでなく、その行為を歴史的、社会的文脈に置くことによって、作品解釈の深化をもたらす可能性をもっています。ウィリアム・シャープ（1855-1905）は、本名に加えて多数の異名の下に執筆を行ったスコットランド出身の作家、批評家であり、特にフィオナ・マクラウドの名における、ケルト文芸復興との関わりによって知られています。10年以上にわたりマクラウドを名乗って文筆活動を継続しただけでなく、実生活でマクラウドのペルソナを構築して人々と交流したシャープは、異性を装った男性作家の代表的存在といえます。シャープをはじめとして、イギリスやアメリカで男性作家たちが女性名を用いた事例に着目し、その経緯や背景を辿るとともに、女性名で発表された作品や、それらに対する批評を分析して、異性名使用の効果について考察しています。近年は、明治から昭和期にかけての日本でのシャープ／マクラウド受容にも関心をもっています。